chapter.2

# 国際協力の基本がわかるQ&A

世界に目を向け、国際協力に携わる人の育成を行っている山本敏晴氏に、基本的な質問にご回答いただきました。国際協力が行われている分野や団体、職種、適性について、また国際協力の仕事に就くための学校選びや学生時代の過ごし方など、これらを参考にしてください。

取材・文／荒尾貴正（本誌編集デスク）　撮影／中岡邦夫（山本敏晴氏）

## Q1 国際協力はなぜ必要なのでしょうか？

**アフリカなどの途上国にはたいへん悲惨な現状がある**

私たち一人ひとりや、あるいはこの国自体もたくさんの問題を抱えているのに、なぜ国際協力をすべきなのか…そんな疑問をもつ人がいるかもしれません。私なりに考える理由のひとつは、世界各国を客観的に見てみれば、アフリカなどの開発途上国の現状は日本よりも圧倒的に悲惨だからといえます。

国連開発計画（ＵＮＤＰ）という国連機関が、毎年「人間開発指数（ＨＤＩ）」を発表しています（図1）。これは保険、教育、所得のデータに基づいて国の開発の度合いを数値化したもので、下位の国ほど開発が遅れていることを示しています。指標のひとつである出生時平均余命は、最長の日本が約83歳なのに対し、最短のシエラレオネは約48歳。アフリカのサハラ砂漠より南には、平均寿命が40歳代の国がいくつもあることがわかります。

そうした国々は教育にも大きな問題を抱えています。日本の平均就学年数は約12年で、高校卒業が国民全体の平均。ところがモザンビークやブルキナファソ、ニジェールといった国々は、わずか

**図1　人間開発指数HDI（Human Development Index）**

| | 国名 | 人間開発指数（HDI） | 出生時平均余命 | 平均就学年数 | 予測就学年数 | 1人あたり国民総所得（GNI） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ノルウェー | 0.943 | 81.1 | 12.6 | 17.3 | 47557 |
| 2 | オーストラリア | 0.929 | 81.9 | 12 | 18 | 34431 |
| 3 | オランダ | 0.91 | 80.7 | 11.6 | 16.8 | 36402 |
| 4 | アメリカ | 0.91 | 78.5 | 12.4 | 16 | 43017 |
| 5 | ニュージーランド | 0.908 | 80.7 | 12.5 | 18 | 23737 |
| 6 | カナダ | 0.908 | 81 | 12.1 | 16 | 35166 |
| 7 | アイルランド | 0.908 | 80.6 | 11.6 | 18 | 29322 |
| 8 | リヒテンシュタイン | 0.905 | 79.6 | 10.3 | 14.7 | 83717 |
| 9 | ドイツ | 0.905 | 80.4 | 12.2 | 15.9 | 34854 |
| 10 | スウェーデン | 0.904 | 81.4 | 11.7 | 15.7 | 35837 |
| 11 | スイス | 0.903 | 82.3 | 11 | 15.6 | 39924 |
| 12 | 日本 | 0.901 | 83.4 | 11.6 | 15.1 | 32295 |
| 13 | 香港 | 0.898 | 82.8 | 10 | 15.7 | 44805 |
| 14 | アイスランド | 0.898 | 81.8 | 10.4 | 18 | 29354 |
| 15 | 韓国 | 0.897 | 80.6 | 11.6 | 16.9 | 28230 |
| 173 | ジンバブエ | 0.376 | 51.4 | 7.2 | 9.9 | 376 |
| 174 | エチオピア | 0.363 | 59.3 | 1.5 | 8.5 | 971 |
| 175 | マリ | 0.359 | 51.4 | 2 | 8.3 | 1123 |
| 176 | ギニアビサウ | 0.353 | 48.1 | 2.3 | 9.1 | 994 |
| 177 | エリトリア | 0.349 | 61.6 | 3.4 | 4.8 | 536 |
| 178 | ギニア | 0.344 | 54.1 | 1.6 | 8.6 | 863 |
| 179 | 中央アフリカ | 0.343 | 48.4 | 3.5 | 6.6 | 707 |
| 180 | シエラレオネ | 0.336 | 47.8 | 2.9 | 7.2 | 737 |
| 181 | ブルキナファソ | 0.331 | 55.4 | 1.3 | 6.3 | 1141 |
| 182 | リベリア | 0.329 | 56.8 | 3.9 | 11 | 265 |
| 183 | チャド | 0.328 | 49.6 | 1.5 | 7.2 | 1105 |
| 184 | モザンビーク | 0.322 | 50.2 | 1.2 | 9.2 | 898 |
| 185 | ブルンジ | 0.316 | 50.4 | 2.7 | 10.5 | 368 |
| 186 | ニジェール | 0.295 | 54.7 | 1.4 | 4.9 | 641 |
| 187 | コンゴ民主共和国 | 0.286 | 48.4 | 3.5 | 8.2 | 280 |
| | 世界 | 0.682 | 69.8 | 7.4 | 11.3 | 10082 |

出典：UNDP「Human Development Report2011」

NPO法人宇宙船地球号
事務局長
**山本敏晴氏**

やまもと・としはる●1965年生まれ。医師・医学博士・写真家・国際協力師。78年、南アフリカにて人種差別問題に衝撃を受ける。90年、医師免許取得。2000年より数々の国際協力団体に所属し、アフリカや中東で医療援助活動を行う。03年より2年間、国境なき医師団・日本理事。04年、「宇宙船地球号」創設。『世界で一番いのちの短い国』（小学館）など著書多数。

1年ほどです。収入についても、日本人の平均年収は約430万円ですが、これらの国々は3～4万円程度。日本の100分の1以下の水準です。

こうした現状を知ったうえで、世界はどうあるべきか、自分はどうすべきかを考える。それが国際協力の第一歩ではないでしょうか。

### 日本が戦後復興できたのも国際協力のおかげ

日本という国にとって、国際協力は「恩返し」の意味合いもあります。第二次世界大戦直後の日本は途上国そのものでしたが、そんな国が「東アジアの奇跡」と呼ばれるほどの経済復興を成し遂げた陰には、世界各国からの支援がありました。

東海道新幹線や東名高速道路、黒四ダムなどのインフラ（社会基盤）は、世界銀行からの莫大な融資（8億6000万ドル、現在の価値で約6兆円）によって作られました。ユニセフは日本の子どもたちのために多大な寄付（約65億円、現在の価値で1300億円）を提供してくれました。また、国際的なNGOであるLARAやCAREという団体も莫大な救援物資を贈ってくれました。そういう過去を思い返せば、次に支援する側に回るのは自然なことといえるでしょう。

一方で日本政府は、1950年代からアジアを中心とした途上国支援に乗り出し始めました。もともとは戦後の賠償責任のためでしたが、自国の経済発展のためという色合いが徐々に強まりました。つまり日本政府の予算で途上国にインフラを整備し、そこに日本企業が進出して工場を建て、車やパソコンなどを安い人件費で作って利益を得る。そうやって日本企業の発展を後押ししてきたのです。1960年代に総理大臣の岸信介が「日本の国益のために途上国への国際協力をやります」と述べましたが、その方針は今も基本的に変わっていません。インドやベトナムに原子力発電所を造る動きも、そうした方針の一環だと思います。

さらに日本は、エネルギーや食料の多くを海外に依存している国でもあります。そういう国が存続していくためにも、国際協力という観点は今後も決して外せないはず。より良い国際協力のあり方を政府もいっそう真剣に考えていく必要があるでしょう。

## Q2 国際協力にはどんな分野がありますか？

### 政治、経済、教育、医療、環境が主要分野

国際協力は、「緊急援助」と「開発援助」の2つに大別できます。緊急援助とは、地震や津波などの自然災害の発生時や、戦争や内戦の発生時に駆けつけ、水や食べ物を配ったり、医師や看護師が治療をするような援助。開発援助とは、そこまで緊急性が高いものではなく、比較的安定している状態の時に入っていき、街づくりや経済発展を手伝っていくような援助のことです。今世界で行われている国際協力は、予算も人数も、その9割以上が開発援助に向けられています。

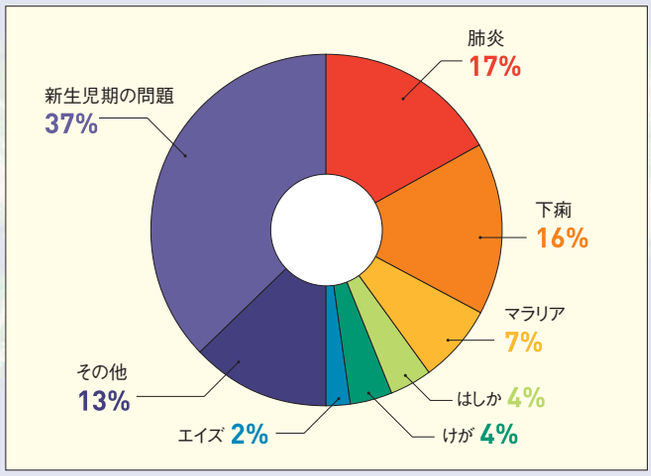
開発援助の現場では、一般に大きく5つのニーズがあります。①**政治**、②**経済**、③**教育**、④**医療**、⑤**環境**です。

**政治**には戦争や内戦を防いだり、戦後の平和構築のために武装解除を実施したり、地雷の除去をすることなどが含まれます。また途上国の多くは女性や子どもの権利が軽視されているので、女性の政治参加を促したり、人身売買を防ぐなど、社会的弱者の人権を擁護する活動もあります。

**経済**の問題で最大のものは、貧困の克服です。そのため経済発展を目指してインフラ作りが行われるケースが一般的です。しかしそれよりも「貧富の差の是正」が必要な国があります。誤解されがちなのですが、途上国とは国民全員が貧しいのではなく、富が一部の金持ちに集中し、先進国とは比較にならないほど貧富の差が激しい国々です。国内の貧富の差を示すものに「ジニ係数」という指数がありますが、世界の最下位層を途上国が占めていることからもその実態がわかるでしょう（**図2**）。支援が貧困者に行きわたるように計画し、実行することも重要です。

**教育**については、例えば女性が水汲みや薪ひろいをして学校に行かせてもらえない国々で男女平等な教育を推進したり、小学校を造って初等教育を充実させたり、職業訓練学校を造って仕事にすぐ役立つ技術を教えること

**図3　世界の5歳未満児の死亡原因**




出典：WHO

**図2　ジニ係数（世界ワースト15）**

| | | ジニ係数 | 調査年 |
|---|---|---|---|
| 1 | ナミビア | 70.7 | 2003 |
| 2 | セイシェル | 65.8 | 2007 |
| 3 | 南アフリカ | 65 | 2005 |
| 4 | レソト | 63.2 | 1995 |
| 5 | ボツワナ | 63 | 1993 |
| 6 | シエラレオネ | 62.9 | 1989 |
| 7 | 中央アフリカ | 61.3 | 1993 |
| 8 | ハイチ | 59.2 | 2001 |
| 9 | ボリビア | 58.2 | 2009 |
| 10 | ホンジュラス | 57.7 | 2007 |
| 11 | コロンビア | 56 | 2010 |
| 12 | グアテマラ | 55.1 | 2007 |
| 13 | タイ | 53.6 | 2009 |
| 14 | 香港 | 53.3 | 2007 |
| 15 | パラグアイ | 53.2 | 2009 |

※ジニ係数は、数値が大きいほど格差が大きい状態を示している
出典：UNDP「Human Development Report2011」

などがあります。また、現地の先生方に教え方を教え、教育方法を伝授していく活動もよく行われます。開発援助の世界では「魚を釣ってあげるより、魚の釣り方を教えるほうが良い」という格言がありますが、これはまさにそのケースです。

**医療**には数多くの分野があり、主だったものとしては患者の病気を治す「診療」、子どもにワクチンを打つ「予防接種」（**図3**）、乳幼児や妊婦の定期的な「健康診断」、きれいな水とトイレを提供する「水と衛生」などがあり、以上を合わせて「保健」と呼ばれています。

**環境**にもたくさんの問題があります。例えばゴミ問題。ゴミ回収や焼却などは先進国でも問題になりますが、途上国はさらに深刻で、そもそも収集の仕組みがない地域があります。地球温暖化による気候変動も大きな問題です。降水量が極端に変動し、例えばバングラデシュなどは洪水で多くの人が亡くなり、一方、北アフリカでは降水量が減って干ばつが起こり、数多くの餓死者が出ている。地球全体で解決していかなければならない問題です。

現在、国際協力について世界的な目標が掲げられています。2000年の国連ミレニアム・サミットで採択された、ミレニアム開発目標（MDGs）です。

**図4　ミレニアム開発目標**
**（MDGs:Millennium Development Goals）**

【目標1】
**極度の貧困と飢餓の撲滅**
・1日1ドル未満で生活する人口の割合を半減させる
・飢餓に苦しむ人口の割合を半減させる

【目標2】
**初等教育の完全普及の達成**
・すべての子どもが男女の区別なく初等教育の全課程を修了できるようにする

【目標3】
**ジェンダー平等推進と女性の地位向上**
・すべての教育レベルにおける男女格差を解消する

【目標4】
**乳幼児死亡率の削減**
・5歳未満児の死亡率を1／3に削減する

【目標5】
**妊産婦の健康の改善**
・妊産婦の死亡率を1／4に削減する

【目標6】
**HIV／エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延の防止**
・HIV／エイズの蔓延を阻止し、その後減少させる

【目標7】
**環境の持続可能性確保**
・安全な飲料水と衛生施設を利用できない人口の割合を半減させる

【目標8】
**開発のためのグローバルなパートナーシップの推進**
・民間部門と協力し、情報・通信分野の新技術による利益が得られるようにする

※上記のうち・のついている目標は、1990年を基準にした2015年までの具体的目標。いくつかあるうちの一部を抜粋

## 2015年達成を目指した全世界共通の目標分野がある

「極度の貧困と飢餓の撲滅」、「初等教育の完全普及の達成」など2015年までに達成すべき8つのゴールを設定しています（**図4**）。

MDGsは各国のODA（政府開発援助）にも影響を与え、現在、日本のODAも重点分野としています。MDGsの理念や取り組みはすばらしいと思いますが、実はこれまでの国際協力の反省から生まれたという経緯があります。途上国を貧困から救うにはどうすれば良いか？　それには市場の自由化、活性化こそが重要であると1980年代ごろは考えられていて、途上国に欧米資本がどんどん投入されました。結果、経済成長する国も出ましたが、貧富の差が拡大するなど数々の問題が発生しました。途上国へのそうしたアプローチは結局のところ「失敗」であったと先導していた国連自体が認め、新たな方針として掲げたのがMDGsです。

これを世界各国も承認し、各国の資金援助によって2015年の目標達成に向けて現在さまざまな活動が行われています。目標達成について中間報告が出ていますが、現在の状況を見ると、アジアはほぼ達成できそうですが、アフリカはまったく達成できそうにありません。アフリカの厳しい現状がここからも伝わってきます。

# Q3 国際協力はどんな団体が行っているのですか？

## 国際機関や政府機関に加え一般企業でも盛んに

大別すると①**国際機関**、②**政府機関**、③**民間組織**、④**企業**、⑤**宗教団体**の5つに分けられます（**図5**）。

**国際機関**とは「2つ以上の国の予算」で運営されている組織のことで、代表的なのは国連（UN）。世界の国々が少しずつお金を出し合い、世界で起きている問題を話し合い、守るべきガイドラインを決めるのが国連の主な役割。ユニセフや国際原子力機関（IAEA）、世界保健機関（WHO）、世界食糧計画（WFP）なども国連の中の組織です。

国際協力に関係している日本の**政府機関**は外務省で、外務省が所管する、国際協力をするための組織がJICA（ジャイカ、国際協力機構）。途上国への技術協力や青年海外協力隊の派遣などを行っている日本のODA（**図6**）の総合的な実施機関です。そのほか、JETRO（ジェトロ、日本貿易振興機構）なども政府機関です。

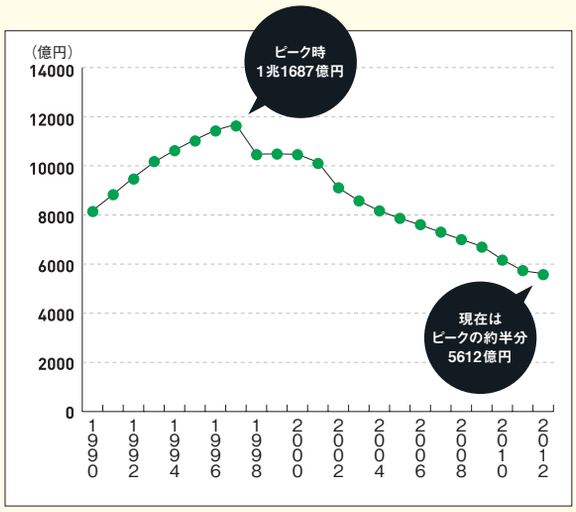
**民間組織**には、NGOがあります。NGOとは本来「非政府組織」のことで、政府ではない組織はすべて含まれるのですが、通常は「国際協力や社会貢献を行っている政府以外の組織」を指します。欧米には数千億円の予算と数万人のスタッフを抱える巨大なNGOがありますが、日本のNGOはもっと小規模です。ちなみにNPOとは「非営利団体」という意味で、「NPO法人」という法人格を取得したNGOは、「NPO法人○○○○○」という名称で活動しています。

**企業**には大きく2通りあり、1つは一般企業。リサイクル品を難民キャンプに届けたり、途上国に植林をするなど企業の社会的責任（CSR）として国際協力を推進する企業は増えています。もう1つは当初から国際協力や社会貢献を目的として設立される企業。「社会的企業」または「ソーシャルビジネス」と呼ばれるもので、そういう事業を立ち上げた人が「社会起業家」。この類の企業も増加中です。

アフリカなどで学校のない地域にキリスト教やイスラム教の団体は学校をたくさん建てました。**宗教団体**はそのようにして国際協力を行っています。

**図5　国際協力を行う団体**

**図6　日本の政府開発援助（ODA）**




### 国内の財政状況が厳しくピーク時の半分以下に

ODAとは、開発途上国の経済・社会の発展や福祉の向上に役立つために行う、公的資金を用いた資金・技術提供のこと。日本のODA予算は70年代から右肩上がりに増加し、ピークの97年には1兆1687億円に上った。その後、経済不況や国家財政のひっ迫で国民の共感が得られづらくなり年々削減。現在はピーク時の半分に満たない。

90年代～2000年まで日本は世界1位の援助国の地位を誇ったが、現在は5位。その結果、日本からの無償資金の供与が半減した途上国が数多く生まれ、国連に対して日本の影響力が低下するなどさまざまな影響も出ている。

# Q4 国際協力にはどんな仕事がありますか？

## 考える人、つなぐ人、やる人という役割がある

国際協力にはさまざまな仕事がありますが、私は「**考える人**」「**つなぐ人**」「**やる人**」の3つの役割に分けるとわかりやすいのではないかと思っています（**図7**）。例えば、「途上国で学校を造る」プロジェクトについて、それぞれの役割を見ていきましょう。

**考える人**とは、プロジェクトの目的や内容を事前に考え、具体的に設計する人のことです。

「その地に初等教育を普及させることによって識字率を向上させ、それにより病気の予防などに関する知識を普及させ、地域の健康状態を改善する」といった、学校を造るにあたっての上位目標を定めたり、現地調査や学校建設、教員育成の方法をデザインしたり、プロジェクト・スタッフの進出や撤退時期、その後のフォローアップを計画したりします。つまり、プロジェクトに必要な「人・物・金」を事前に検討する人たちです。そういうことについて知識や経験のある人、例えば大学教授やシンクタンクの研究員などが考える人として活躍することが多いです。

**つなぐ人**とは「人・物・金」をつなぐ人のことで、コーディネートや管理の仕事です。例えば、日本で募金を集めたり、スタッフの募集を行う。途上国の首都で学校を造る許可をとったり、建設会社と契約をしたり、文房具を用意したりする。途上国の現地で村長さんと話し合いをしたり、教師を採用する。実際にプロジェクトを推進していくにあたって必要な、ありとあらゆる業務がここには含まれます。

**やる人**は、現地で雇った人、または現地の公務員やコミュニティーの人に無償で協力してもらうようなことが多く、さらに日本の専門家が行うケースなどがあります。

考える人、つなぐ人、やる人の割合は、日本など先進国側の人数だけを考えると、大よそ1対8対1くらい。どの役割も同じくらいに重要なのが国際協力の世界です。次に団体ごとの特性を見ていきましょう（以下、わかりやすいように話を単純化します。個々の詳しい仕事内容は調べてください）。

## 途上国の現場で働きたいならNGOがおすすめ

まず国連職員の仕事は、ほとんどが**つなぐ人**といえるでしょう。国連には、それぞれの組織に各国代表者が出席する理事会があり、それがここで言う**考える人**で、理事会で決められたことをかたちにしていくのが国連職員です。

日本の政府機関の場合、外務省が**考える人**の役割。外務省から依頼された仕事をするのがJICAで、そこにはJICA職員といわれる人がいますが、その人たちの多くは**つなぐ人**です。さらにJICAから依頼される開発コンサルティング会社の技術者や、「JICA専門家」とよばれる専門職の人たちは、現地の人たちを巻き込んでプロジェクトを推進していくという意味で、**つなぐ人**、**やる人**の中間または両方の仕事を担うことになります。

NGOは、その理事が**考える人**、それ以外のスタッフが**つなぐ人**という形態です。NGOは一般に活動が小規模なので、一人がさまざまな役割をこなしているケースが多いでしょう。

国連職員やJICA職員と、NGOスタッフの仕事の決定的な違いは、「現場の近さ」です。国連やJICAは基本的に途上国の現地政府を通して活動するため、国の首都で交渉ごとなどをすることが多く、一般に現場に行くことはあまりありません。本当の現場に行き、現地の人々と触れ合うような仕事をしたいなら、NGOがいいでしょう。

**図7　国際協力の3職種**

# Q5 国際協力の仕事に就くには、どうすればいいでしょう？

**〝英語〟〝大学院〟〝2年間実務〟を目標にしたい**

「特定の団体に入る」のを目標にすることを私はあまりおすすめしません。それよりも「ある分野のプロになる」ことを目指すほうがいいと思います。その分野は国際機関にも政府機関にもNGOにもあるはずです。

団体として「ベスト」のところなどなく、各々に一長一短がありますし、NGOから国際機関へ、あるいは政府機関からNGOへというように転身する人は珍しくありません。それゆえ、すべての団体を選択肢に入れておくくらいでいいでしょう。一般に国際協力のプロになる場合、以下の3つの条件が必要になることが多いです。

**1 英語力**
**2 大学院修士**
**3 2年間の社会人経験**

これらの取得を目指してキャリアを形成していくのが良いでしょう。それを頭に置きつつ、次に団体ごとの採用方法や条件を見ていきましょう。

国連をはじめとする**国際機関**への応募にはさまざまな方法があります。最も一般的なのは、各機関で発生する「空席ポスト」への応募ですが、高い専門性や長い業務経験が求められるため、新卒者向けではありません。日本人が国際機関の職員になる際に最も多い方法は「JPO派遣制度」。外務省主催で、将来、国際機関の正規職員になりたい人を対象に、日本政府の費用負担により各国際機関に2年間派遣する制度です（国連関係機関の日本人職員765人中、334人がこの制度の経験者。2011年現在）。応募資格は、英語またはフランス語で職務が可能、大学院修士、職務経験2年以上、35歳以下。倍率は10～20倍という難関です。

国連職員の給与はアメリカの公務員レベルに準じています。ドル建てかつ現在円高の影響で、日本人にとっては日本の国家公務員と同等か、場合によってそれ以下のこともあるようです。雇用形態は、ほとんどの機関に終身雇用契約はなく、半年～2年間の期限付き雇用契約が一般的。契約を終え、他の機関のポストにステップアップする人も多くいます。

**政府機関**のJICA職員は、国際協力の仕事の中で数少ない「終身雇用」のポスト。給与は日本の国家公務員と同等です。応募資格は、短大、大学、大学院のいずれか。毎年30人程度の採用枠のため倍率はかなり高く、語学力や留学経験など、自分を強くアピールできるものが必要でしょう。落ちたとしても毎年社会人採用も行っているので、引き続きそれにチャレンジする人もいるようです。また、特定の分野で社会経験を積めば、将来、JICA専門家（技術協力専門家）として活躍することもできます。このポストは国連職員と同様、期限付き雇用契約です。

**NGO**は随時スタッフを募集しています。国際協力NGOセンター（JANIC）のサイトには数多くのNGOの人材募集情報（正規職員、インターン、ボランティアなど）が常時掲載されているので、それをチェックするのがいいでしょう。応募資格は学歴よりも、専門性や社会経験、語学力などが問われます。NGO職員で月収20万円以上のところは少ないですが、働けば何らかの技術や経験が身につくことは期待できます。

JICAからODA案件を委託され、途上国で各種の開発業務を行う**開発コンサルタント会社**は、一般企業と同様に「終身雇用」が主です。ただし、最初から専門能力が問われ、採用は中途採用が中心。土木・建築系の技術者だけでなく、教育や医療、福祉などに強い人材も必要とされています。

そのほか、一般企業で「企業の社会的責任」を管轄する**CSR部**などの部署に入って国際協力の担当になるという道や、金融機関に入って**SRI担当**（社会的責任投資＝企業の社会的責任の状況を考慮して行う投資）になる方法もあります。また、**起業家**または**社会起業家**として株式会社やNPOを立ち上げ、自分が考える国際協力のやり方を実践することも可能です。

山本敏晴氏の著書には、国際協力の仕事に就くための具体的な情報が多いので参考にしてほしい。左記の『「国際協力」をやってみませんか？』のほか、『世界と恋するおしごと　国際協力のトビラ』、（以上、小学館）、『国際協力師になるために』、『アフガニスタンに住む彼女からあなたへ』（白水社）などがある。

# Q6 どんな大学・学部を目指せばいいでしょう？

## テーマが絞れない人には「国際関係学科」がおすすめ

国際協力の仕事を目指すとき、どの大学がいいとか、どの分野が有利だということはありません。自分が知りたい、学びたいと思う分野を学ぶのが一番です。どの分野でも国際協力には必ず結びつくと考えていいと思います。

例えば、子どもや女性の人権を守ることを学びたいなら「法学部」、貧富の差のない経済社会を構想したいなら「経済学部」、チームリーダーとしてプロジェクトを引っ張っていく人になりたいなら「MBA（経営学修士）」、環境破壊について学びたいなら「理学部」や「環境系学部」、人の命を救う仕事をしたいなら「医学部」や「看護学部」…というような考え方もいいでしょう。

もし現段階では漠然としていて、国際協力には興味があるけれど、どんな分野がいいかまだピンと来ないという人は、大学の「国際関係学科」などに進むといいでしょう。この学科では国際協力について幅広く学べますから、そこでさらに深く学びたいテーマが見つかったら、その分野を大学院で学ぶのもいいと思います。

## エイズ撲滅にはあらゆる専門家が必要

もうひとつ、学ぶ分野を考える際のヒントとしては、現実に起きている問題にはさまざまな側面があり、ひとつの問題にさまざまな立場の人たちがかかわっていることも知っておくといいでしょう。

例えば、「エイズ」という問題。HIV／エイズは一見すると医療問題のように見えますが、決してそれだけではありません。アフリカのサハラ砂漠以南の国々にはHIV感染率が成人の3分の1を超えている国も多くあり、それが働き手を減らし、医療費もかさみ、国家財政を揺るがす大きな問題になっています。そんな地域のために今、さまざまな人々が貢献しています。

エイズ対策の資金源創出のために「経済の専門家」が「グローバル・ファンド」などを立ち上げています。

HIV陽性者やエイズ患者は社会的偏見にさらされることが多く、また、エイズにより親を失った1000万人以上の「エイズ孤児」たちもまた差別や屈辱感に苦しんでいます。「人権の専門家」がこうした人々を社会的に保護する活動を行っています。

エイズは幼少期からの予防教育が重要ですが、学校の先生からレクチャーしてもその効果は薄く、子どもの中のリーダーが仲間に教える「ピア・エデュケーション」という手法が現在は最も有力といわれています。そういう手法を実施する「教育の専門家」たちもいます。

新生児への感染を防ぐ対策のひとつは母乳ではなく粉ミルクを使うことですが、それには「安全な水」が必要。しかし途上国では入手困難なため、それを確保する「環境の専門家」たちも働いています。さらに目の前の患者さんへの治療を行う「医療の専門家」など、エイズ撲滅に向け、全世界で数多くの人たちが力を合わせて闘っています。

日頃から社会問題をさまざまな角度から見る習慣をつけておくことも、将来の進路選択の際には生きてくるでしょう。

### ■ 医療専門職として国際協力にたずさわるには

医療専門職となって国際協力に携わる場合、直接患者を診療する「臨床」をする以外にも、途上国の公衆衛生の向上に力を注いだり、政策決定に関与するなど医師や看護師にもさまざまなかかわり方があるが、ここでは途上国で「臨床」をする場合の条件を示す。

- **医師免許、看護師免許などの国家資格の取得**
- **資格取得後に実務経験**
  **（医師なら5年以上、看護師なら3年以上）**
- **英語かフランス語で仕事ができる**

これらは、ほぼ絶対条件。加えて助産師や保健師の免許、母子保健の知識と経験、救急室の勤務経験、集中治療室や手術室の経験などから、最低1つ。あとはエイズ、感染症対策全般、ワクチン、熱帯医学、公衆衛生学の知識があればベター。自動車や自動二輪の免許も役立つ。

そのうえで現地への挑戦は、医師ならNGOのみ。看護師なら青年海外協力隊もある。

### ■ 世界の現実を知るサイト例

**【宇宙船地球号】http://www.ets-org.jp/**
この中の「お絵描きイベント」というサイトでは、世界40か国以上の国々の人が描いた「大切なもの」の絵を通してその国の社会問題が解説され、それに対するプロジェクトも紹介されている

**【イラク・ボディ・カウント】http://www.iraqbodycount.org/**
イラク戦争で亡くなった市民の数が日々カウントされている

**【国連】http://www.un.org/**
「平和と安全」「開発」「人権」などの分野について、現在世界でどのような問題があり、どんな議論がなされているかがわかる

**【ユニセフ】http://www.unicef.or.jp/**
世界の子どもたちの現状や、ユニセフの活動内容がわかる

**【国連難民高等弁務官事務所】http://www.unhcr.or.jp/**
世界中に存在する難民の厳しい現実がわかる

## Q7 どんな学生生活を送るといいでしょうか？

### 語学力を磨くことと途上国の現場を見ること

国際協力の世界に興味がある人は大学生からとは言わず、今からでもメルマガやサイトで情報収集を始めましょう（左図）。そのうえで学生時代にやっておくべきなのは「語学力」を磨くことと途上国の「現場を見る」ことです。

国際協力の現場は、英会話力が必須。英語で仕事ができるレベルになっておくことに加え、できれば仏語も習得したい。国連やアフリカでの仕事には必ず生きるからです。だから私は第2外国語には仏語を強くすすめています。

途上国で行われている国際協力の現場を見る方法として、まず「スタディツアー」というものがあります。JICAやNGO、国際機関などが主催し、その団体が活動している途上国の現場を1～2週間巡り、見学させてもらうもの。将来入りたい団体のツアーには参加しておくべきです。それと「国際ワークキャンプ」（左下図）。海外で行うボランティアのことですが、夏休みや春休みをつかって国外で数週間ボランティアをするのは貴重な経験になるし、履歴書にもインパクトが出ます。

さらに世の中や仕事というものを知るために、学生時代に一般企業とNGOの両方で「インターン」を経験することを私はおすすめします。

### 大学卒業後に海外勤務を経験したい

国際機関を目指すのであれば「英語力」と「大学院修士」は必須で、さらに「2年間の海外勤務経験」があると評価されます。これについては、次の5つの選択肢があります。

1 青年海外協力隊
2 国連ボランティア
3 外務省在外公館派遣員
4 外務省在外公館専門調査員

### 5 NGOの海外インターン

総合的に見て、私は青年海外協力隊を最もおすすめしています（26p参照）。国連ボランティアは国連職員とまったく同じ仕事をする点がよいのですが、社会人経験（5年以上程度）が必要。在外公館派遣員は高卒者や大学在学中でもOKで、海外の大使館で事務や補助的な仕事をします。在外公館専門調査員は大学院修士または大学卒業後の実務経験が必要で、海外の大使館で外交のための調査をします。調査員から国連職員になったケースは多くあります。NGOの海外インターンは給与が少ないか、ない場合があります。けれども自分次第で、密度の濃い体験ができるでしょう。

### 情報収集できるメルマガ・サイト例

【国際協力マガジン】
http://devmagazine.org/

【国際連合広報センター】
http://unic.or.jp/

【国連情報誌SUN】
http://blog.livedoor.jp/sun_news/

【Club JPO】
http://homepage3.nifty.com/clubjpo/

【ODAメールマガジン】
http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/

【JICAメールマガジン】
http://www.jica.go.jp/

【JANIC】
http://www.janic.org/

【NGO／NPO Walker】
http://www.npo.info/

### 誰もが一度は参加したい「国際ワークキャンプ」

国際ワークキャンプとは、世界中から集まった参加者が2～3週間生活を共にしながら地域住民と一緒にボランティア活動にいそしむ、国際協力のひとつのスタイル。発祥は第一次世界大戦後のヨーロッパ。互いの理解不足が戦争を招いたと痛感したフランス、ドイツなどヨーロッパの若者が共同生活をしながら戦争で荒れた農地を復興。「共に汗を流した者同士が、あとで戦いたくなるわけがない」という平和への願いがこの活動のルーツである。「メキシコで海がめの保護活動」「フランスで国家遺産の修復」「タンザニアで学校建設」「気仙沼でカキ養殖の再生」など、現在世界中であらゆる種類のワークキャンプが立ち上がっている。参加条件は「カタコト以上の英語力」のみ。誰でも参加でき、現地集合・現地解散が特徴である。

国際ワークキャンプの派遣事業で日本最大手のNICE（日本国際ワークキャンプセンター）は、年間1000人前後の人たちを日本から派遣している。学生8割、社会人2割。男性3割、女性7割。これが参加者のプロフィール。この経験を経て青年海外協力隊などの国際協力に進む人のほか、教員や福祉の分野に進む人が多いという。

「海外では、普段自分に付随している学歴や家族、友人関係などのいっさいが取り払われ、まっさらな自分を見つめることができます。自分自身を知る機会として、これ以上のものはないでしょう。大学生になったら、ぜひチャレンジしてもらいたいですね」

（NICE広報部長　辻陽一郎氏）

トルコ最西端の移民が多く暮らす町で、子どもが安心して遊べるよう公園でペンキ塗りなどの整備活動をする参加者

# Q8 青年海外協力隊とは何ですか？

**初心者にメリットが多い 国際協力のボランティア**

青年海外協力隊とは、日本政府のODAのお金による初心者向けの国際ボランティアのこと。年間約1400人が途上国80か国に2年間派遣されます。分野は農林水産、土木建築、保健衛生、教育文化など8分野約120職種。応募資格は、基本的に20～39歳という年齢のみ。資格が要求される職種もありますが、そうでない職種もたくさんあり、現在、倍率は2～3倍といわれています。

青年海外協力隊にはメリットが多く、例えば派遣前に2カ月間も無料で語学研修を受けられたり、さまざまな技術研修の機会もあります。また派遣される2年間、毎月、生活費と再就職準備金とを合わせて10万円前後のお金がもらえます。現地での生活費はあまりかからないため派遣後に貯金ができ、それをもとに将来をゆっくり考えることもできるでしょう。最大の利点は、国際協力の仕事に就く際に有利な「2年間の海外勤務経験」が自動的に得られ、同時に語学力も身につくことです。

反面、デメリットも多く指摘されています。「思うような活動ができない」「行ってみたら話が違って、聞いていた仕事とは違うことをすることになった」といったケースが比較的多く、また、経験者が企業に進もうとする際、一般企業の評価はまだあまり高くないという現実もあります。

しかしトータルに見て私は、青年海外協力隊に参加することを勧めています。そこは本人の自主性が重んじられる場所であり、遊んでいることもできますが、逆にプロの国際協力に近い活動も十分に可能です。すべては本人次第という、貴重なチャレンジの場なのです。

# Q9 国際協力ではどんなことに気をつけるべきですか？

**「ありがた迷惑」はいけない そして、死んではいけない**

国際協力の現場では、これまでにたくさんの「失敗」例があります。例えば有名な事件としては、カンボジアの水の足りない地域で、日本人の学生ボランティアなどが善意から井戸を掘りました。水が出て村人に与えたのですが、それにヒ素が混ざっていて甚大な健康被害をもたらし、亡くなる人まで出てしまいました。事前に化学検査をしなかったことがその原因です。良かれと思ったことが迷惑となってしまう、その典型的なケースといえるでしょう。

先進国と途上国では文化や宗教や生活スタイルが違ったりするので、こちらが「良い」と思ったことが本当に役立つかどうかはわかりません。現地でニーズや現状の調査をすることなしに国際協力をしても、実際のところは迷惑にしかならないことを肝に銘じておく必要があります。

国際協力を行ううえでもうひとつ重要なのは、「死なないこと」です。

例えば日本人が現地で亡くなった場合、マスコミが大きく報道するでしょう。すると外務省がその国にいる日本人全員の帰国勧告をすることもあり得ます。となれば国連やJICA、NGOなどに所属してその国で働く日本人がみな撤退し、すべてのプロジェクトが中断するでしょう。するとどうなるか？　そこで水や食料や医療の支援を受けていた何十万人もの人たちに、それらがその日から届かなくなる可能性があるのです。何より支援を途切れさせないために、私たちは決して死んではならないのです。

なお、そうした非常に危険な、紛争地帯での緊急援助活動を行っているのは、赤十字などのNGOが主力です。国連や政府機関で緊急援助にかかわっているのは、ごく一部の人々のみです。

いずれにしても、そうした紛争地帯での緊急援助にかかわる人々は、事前に、厳しい訓練を受けています。危険な地域で、どのように自分やチームの仲間を守るか、という講習を受けます。これを受けることによって、死亡事故などが起きる確率を大幅に下げることができるのです。

## Q10 国際協力にはどんな人が向いていますか？

**社交的な人が向いているがそうでない人でも大丈夫**

一般に国際協力の世界では、「コミュニケーション」のスキルが重要だといわれています。

国連やＪＩＣＡ、ＮＧＯの職員たちの仕事の多くは、物事を人に伝えたり、会議をして決めたり、交渉をするといったコミュニケーションが主だからです。すなわち、人と自然に会話ができて、人と人とをつなぐのがうまく、自己主張もでき、外国語も十分に操れて、外国人にも物怖じしないような、「社交的」で「外交的」な人が基本的には向いているといえるでしょう。

一方で私のところには、「自分は英語が苦手で、人とうまくやっていく自信もないのですが、国際協力を仕事にできるでしょうか？」と相談に来る若者がけっこういます。

そんなとき私は、「だいじょうぶです」と答えます。なぜなら22Pで示したように、国際協力の世界にはさまざまな仕事があるからです。「つなぐ人」には相応のコミュニケーション能力が求められますが、「考える人」や「やる人」はもともと各分野の研究者や専門家です。政治や経済、教育、医療、環境、ＩＴ、土木工事…といった各々の専門分野について実力があることが一番重要だからです。

ゆえに結論としては、国際協力に向いている人、向いていない人などなく、どんな人にも活躍の場があると考えていいでしょう。

## Q11 仕事として行う以外にできる国際協力はありますか？

**私たちの生活や仕事の多くが国際協力につながっている**

国際協力を仕事にすることも大切ですが、この世界を持続可能なものにするには、主婦として賢く買い物をしたり、一般企業で社会的な責任を意識しながら仕事をする人が増えていくことのほうが重要ではないかと私は考えています。その点で、私たちが日頃からできることはたくさんあります。日本で身近に始められることを以下に示していきましょう。

**①環境問題を防ぐ**

電気をたくさん使うと火力発電所から二酸化炭素が出て地球温暖化が進み、気候変動によりアフリカなどが干ばつに襲われます。そうならないために、日頃から電気の使用量を減らすことを心がけたいものです。

**②良い企業の商品を買う**

環境に配慮し、社会に貢献しようと努力している企業の商品を優先的に買ってあげること。逆に言えば、そうでない企業の商品は買わない、というような買い物の仕方をしていくべきです。その際の情報になるように、私の団体である「宇宙船地球号」では「企業の社会的責任」について独自のランク付けを行っています。サイトで公表していますので、ぜひ参考にしてください。

**③企業の社会的責任を進める**

普通に日本の会社に就職をして、そのなかで「企業の社会的責任」を推進していくことです。例えばすべての企業が、環境破壊をしていたり児童労働をさせている企業とは取引をしないと決めるだけで、世界のかなり多くの問題が解決すると思います。企業のふるまいは、今後一層社会から注目されていくでしょう。

**④募金をする**

募金の際には、その団体が本当に実在するか、募金をする価値がある団体かどうかなどを事前にホームページなどを使って調べましょう。

**⑤団体を応援する**

自分が応援したい団体があるならそこに入って、何らかの手伝いをさせてもらうこともできるでしょう。広報や会計、翻訳、サイト制作、イベント業務など仕事はいくらでもありますから、よろこばれるでしょう。

**⑥現実を知り、発信する**

ブログやツイッター、フェイスブックなどを使って自分が良いと思う団体を宣伝したり、途上国の悲惨な現状を広報するということも立派な国際協力です。そのために勉強を続けることが大切だと思います。